

メディアセンターによる企画展示

第33回 慶應義塾図書館貴重書展示会

菟(あつ)められた古(いにしえ)―江戸の日本学―

内容：近代日本に華開いた好古と蒐集の文化に焦点を当て、学者・橋本経亮（つねすけ）が生涯をかけて蒐集した1200点余りの資料群「香果遺珍」を中心に展示を行った。「香果遺珍」は1947年に慶應義塾図書館に寄贈され、分量の多さと内容の多種多様性ゆえに長く未整理で保管されていたものである。2009年より斯道文庫の協力で目録作成が進み、ついに今回の貴重書展示会で初公開となった。展示は「香果遺珍」の他、経亮が深く交流した松平定信・本居宣長・上田秋成・谷文晁など近世文化史上のキーパーソンにも触れる。橋本経亮はあまり人口には膾炙していない学者のため、解説パネルや年表の他、長大な巻子の複製や起こし絵の立体物、「香果遺珍」資料が収納されていた木箱4つのうち2点を現物展示するなど、イメージが広がるように工夫した。監修者のギャラリートークは、2020年度に引き続き感染症予防対策のため事前Web予約・先着20名限定で2回開催した。来場者の声はもちろん、SNS上での経亮と今回の展示に対する評判も上々で、大成功の展示となった。

(期間中の来場者は958名)

主催：慶應義塾図書館 協賛：丸善雄松堂株式会社

協力：慶應義塾大学附属研究所斯道文庫

会期：2021年10月6日（水）～12日（火） 会場：丸善・丸の内本店4階ギャラリー

ギャラリートーク：10月8日（金）18時～、10日（日）14時～ 両日とも一戸渉（斯道文庫准教授）



「香果遺珍」が収められていた木箱のうち「賦箱」「興箱」



ギャラリートークの様子



中国の賢臣が立ち並ぶ長い巻物の複製を前に